

授業科目名：人権教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 美加
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人権尊重のための知識や態度及び実践力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな人権問題に関する知識を身につけている 2. 人権に関する基本的な考え方を知っている 3. 人権を自らの問題として認識し、考えることができる 			
<p>授業の概要</p> <p>本講では、受講生の人権尊重のための知識や態度等を養うため、人権とは何か、人権教育の意義は何かを明らかにするとともに、これまで国内外において人権保障のための取り組みがどのように行われてきたかを、色々な事例を通して理解します。これによって、受講生が「人権感覚を豊かにすること」に配慮しつつ、近い将来、一人一人の国民として、あるいは保幼・小・中学校の教員、保育者として、自他の人間尊重のための適切な行為ができる態度や力を育むことを期待します。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. なぜ、人権教育は必要か。 3. 人権とは何か 4. 人権の歴史 5. 人権教育の位置づけと法的根拠 6. 人を差別する心 7. 教室での人権問題：いじめや体罰 8. 教室での人権問題：ジェンダー 9. 障害者の人権問題－障害者権利条約－ 10. 児童虐待と人権問題 11. 子どもの貧困と学力問題 12. 女性の人権問題－女性差別撤廃条約－ 13. インターネットによる人権侵害 14. 在日外国人と人権問題 15. 総括第9回： 			

レポート課題を実施する。
テキスト なし（第1回授業時に指導資料を配布する）
参考書・参考資料等
学生に対する評価 発表および課題：100% 発表は、特定のテーマに関わる人権問題について調べたこと・考えたこととし、発表内容と発表方法を評価する。 課題は、指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点を抑えてまとめられているかを評価する。

授業科目名： 道徳教育の理論と指 導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川 潤
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（中） 大学が独自に設定する科目（高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>道徳教育の歴史・理論および「特別の教科 道徳」の意義と指導法</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本と西欧における道徳教育の歴史を習得している 2. 学校教育における道徳教育の目標と内容と方法を統一的に理解している 3. 実践的に解決しがたい問題にも、解決方法を模索し創意する志向性を有している 			
<p>授業の概要</p> <p>道徳教育に関する理論および戦前から現代に至るまでの道徳教育の歴史的経緯を学び、これからの時代の学校における道徳教育の意義について理解を深める。これらの基礎知識を踏まえて、学習指導要領における「特別の教科 道徳」の内容と目的を学ぶとともに、道徳教育特有の課題も認識できるようにする。実践面では、具体的な教材をもとに指導案作成を実施し、学校現場における道徳教育の指導法を体感的に習得できるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション―道徳教育とは何か―〈コアカリ(1)-1〉</p> <p>第2回：現代の社会病理と道徳〈コアカリ(1)-2〉</p> <p>第3回：道徳教育の理論①―西洋倫理学―〈コアカリ(1)-1)2〉</p> <p>第4回：道徳教育の理論②―全体主義に陥らないために―〈コアカリ(1)-1)2〉</p> <p>第5回：道徳教育の理論③―儒教と“生き方”の道徳―〈コアカリ(1)-1)2〉</p> <p>第6回：道徳教育の理論④―道徳性の発達理論―〈コアカリ(1)-3〉</p> <p>第7回：道徳教育の歴史―「修身」から「特別の教科 道徳」まで―〈コアカリ(1)-2〉)</p> <p>第8回：特別の教科 道徳①―学習指導要領を読み解く―〈コアカリ(1)-4, (2)-1)2〉</p> <p>第9回：特別の教科 道徳②―「考え、議論する道徳」と評価―〈コアカリ(1)-4, (2)-1)2)5)〉</p> <p>第10回：道徳教育の教材〈コアカリ(2)-3〉</p> <p>第11回：道徳の指導案作成①〈コアカリ(2)-3)4)5)〉</p> <p>第12回：道徳の指導案作成②〈コアカリ(2)-3)4)5)〉</p>			

第13回：道徳の模擬授業①〈コアカリ(2)-6〉

第14回：道徳の模擬授業②〈コアカリ(2)-6〉

第15回：模擬授業の振り返りとまとめ〈コアカリ(2)-6〉

テキスト

なし（授業時に指導資料を配布する）

参考書・参考資料等

『教育法規スタートアップ・ネクスト ver. 2.0』高見茂／昭和堂
 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』
 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』
 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』

学生に対する評価

◆成績評価方法

- ①小レポート10%
- ②指導案 30%
- ③平常点 40%
- ④期末レポート 20%

◆成績評価基準

- ①小レポート：自分なりの問題意識を持ち、道徳教育に期待される役割を理解しているかどうかで評価する。
- ②指導案：授業後半で作成する学習指導案をもって評価する。
- ③毎回の授業後に課題コメントをロイロノートで提出する。
- ④授業で学んだ内容を踏まえて、自分なりの見解が持てているかどうかを評価する。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大芝 理穂
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業テーマ】</p> <p>周りの人にも話したくなるような憲法15話</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する基本的な知識を取得し、解釈の方法や裁判例の読み方を身につけることができるようになる。 ・国会・内閣・裁判所・地方自治など、国や地方の政治が動く仕組みを理解することができるようになる。 ・現実の政治や社会、日常生活における人権の扱いをめぐり、自らの力で問題を発見し、解決や改善のための方向性を示すことができるようになる。 ・憲法の歴史的伝統的解釈を学び、現代における諸問題に応答する力を獲得する。 ・上記の身につけた知識を論述できるようになる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法の基本的な原則を理解する 2. 具体的な判例等を通して人権の問題を理解する 3. 暮らしにおける憲法の意味を理解する 			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法の基本原理を概観し、個別の人権が現実の政治や社会、日常生活のなかでどのように扱われているかについて講義する。また、国会、内閣、裁判所といった国の政治機構や地方自治などについても扱う。テキストを参照しながら、学説や裁判例を補足し、受講生の皆さんと考えながら授業を進めることを心掛ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：憲法とは何か（テキスト：はじめに、1～4） 日本国憲法の歴史的背景や改正、最高法規性について。</p> <p>第2回：人権とは何か①（テキスト：5、6、9） 人権の享有主体、法の下での平等について。</p> <p>第3回：思想・良心の自由（テキスト：10） 日の丸、君が代に関する訴訟を題材に考える。</p> <p>第4回：信教の自由と政教分離（テキスト：11）</p>			

政教分離に関する事例を参照し、どのような問題があるか。

第5回：信教の自由と政教分離（テキスト：11）

政教分離に関する事例を参照し、どのような問題があるか。

第6回：表現の自由（テキスト：12）

表現の自由の意義、ヘイトスピーチなどの問題について。

第7回：刑事手続、犯罪者の権利（テキスト：13）

適正手続、裁判員裁判、死刑制度などについて。

第8回：経済的自由（テキスト：14）

経済的自由の歴史や実際の判例について。

第9回：生存権（テキスト：15）

人間らしく生きるとはどういうことなのか。

第10回：教育と自己決定権（テキスト該当なし）

教育を受ける権利は、どのような状態が保障されているといえるのか。

第11回：労働権（テキスト該当なし）

「勤労の義務」とは何なのか。

第12回：参政権・国会・地方自治（テキスト：16、21、24）

民主主義のあるべき姿や、立憲主義との関係について。

第13回：内閣・裁判所（テキスト：17、22、18、23）

行政権とは何か。司法権とは何か。

第14回：平和主義（テキスト：20）

平和主義や平和的生存権に関する学説や判例を確認し、日常生活との関係などを考える。

第15回：天皇（テキスト：19）

天皇が憲法上どのような存在であるか、現実に問題となっていることについて。

定期試験

テキスト

「憲法への招待」著者：渋谷 秀樹/出版社：岩波書店

参考書・参考資料等

授業内で紹介する

学生に対する評価

授業後の課題（小レポート）50%

定期試験50%

【授業後の課題（小レポート）】

授業内容に関する小レポートを授業後に提出してもらいます。質問の内容が理解できているか、自分の言葉で説明することができるかを評価します。

【定期試験】

授業で扱った内容について説明でき、自分の考えが書けるかどうかを評価します。論述式の試験です。

授業科目名： スポーツ実技 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 加藤 大門
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツ実技を通して、身体活動の重要性と楽しさを感じて、仲間と協力することの大切さを学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツの本質に迫り、独自のおもしろさを確認する。 2. スポーツ技術を系統的に実践することができる。 3. スポーツを自主的、集団的に実践できる力量を高めることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>現代文明社会の機械化、家庭における電化製品の普及および交通手段の発達により、我々の身体活動量はますます低下してきている。身体活動は、達成感やストレス解消などの効果を持つが、自主的に運動やスポーツをする人は年々減少している。そこで、本授業では、受講者が生涯にわたって、それぞれのライフスタイルに応じた適切な運動を行うための知識と技能を修得し、定期的な運動習慣を身につけることを目標とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 授業概要、進め方等について説明</p> <p>第2回：アウトドアスポーツ①テニス</p> <p>第3回：アウトドアスポーツ②竹馬</p> <p>第4回：アウトドアスポーツ③ゲートボール</p> <p>第5回：アウトドアスポーツ④フットサル</p> <p>第6回：アウトドアスポーツ⑤ゴルフ</p> <p>第7回：アウトドアスポーツ⑥ソフトテニス</p> <p>第8回：インドアスポーツ①バドミントン</p> <p>第9回：インドアスポーツ②卓球</p> <p>第10回：インドアスポーツ③フライングディスク</p> <p>第11回：インドアスポーツ④バレーボール</p> <p>第12回：インドアスポーツ⑤室内ホッケー</p> <p>第13回：インドアスポーツ⑥バスケットボール</p> <p>第14回：インドアスポーツ⑦トレーニング</p> <p>第15回：インドアスポーツ⑧レクリエーション</p>			

テキスト

適宜指示する

参考書・参考資料等

適宜指示する

学生に対する評価

授業への参加度40%、取り組み度40%、レポート20%を総合的に評価する。

授業への参加度（主体的な運動実践、積極的な発言、教員や他の学生への配慮等）

取り組み度（積極的な準備や片付け等）

レポート（授業を受けてみての感想等）

授業科目名： スポーツ実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石田 佳子・樫 智子・ 加藤 大門・渡邊 為彦
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>スポーツ実技を通して、身体活動の重要性と仲間と協力しあう楽しさを学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各スポーツの本質に迫り、独自のおもしろさを確認する。 2. 各スポーツの技術を系統的に実践することができる。 3. 各スポーツを自主的、集団的に実践できる力量を高めることができる。 			
授業の概要			
<p>現代文明社会の機械化、家庭における電化製品の普及及び交通手段の発達により、我々の身体活動量はますます低下してきている。また、身体活動は達成感やストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。そこで本授業では、受講生が生涯にわたってそれぞれのライフスタイルに応じた適切な運動を行うための知識と技能を習得し、定期的な運動習慣を身につけることを目標とする。</p> <p>種目はバスケットボール・バレーボール・ソフトバレーの3種目とする。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：バスケットボール（シュート・パス・ドリブル）			
第3回：バスケットボール（パス・ドリブル1対1・2対2・3対3）			
第4回：バスケットボール（1対1・2対2）			
第5回：バスケットボール（3対3）			
第6回：バスケットボール（ゲーム・審判の仕方）			
第7回：バスケットボール（リーグ戦）			
第8回：バレーボール（オーバーパス・アンダーパス・スパイク）			
第9回：バレーボール（応用技術）			
第10回：バレーボール（ゲーム）			
第11回：バレーボール（リーグ戦）① 戦術を理解する			
第12回：バレーボール（リーグ戦）② 審判のやり方を理解する			
第13回：ソフトバレーボール（基礎技能）			
第14回：ソフトバレーボール（ゲーム）			

第15回：ソフトバレーボール（リーグ戦）① 戦術を理解する

テキスト

授業内で資料を配布する

参考書・参考資料等

適宜紹介する

学生に対する評価

授業への取り組み状況60%、技能30%、レポート10%を総合的に評価する。

授業への取り組み状況：運動できる服装で時間に集合、積極的な運動への取り組み、チーム活動への貢献、コミュニケーション力などを評価する。
--

技能：運動のルールを理解し、ゲーム（運動）を行うことができることと、運動の特性を理解し、身体で表現（運動）することができることを評価する。

レポート：指定されたテーマについて、要点を抑えてまとめられているか評価する。
--

授業科目名： 総合英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ストリッケント サック
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>将来、学生は職場で使うと考えられる英語に焦点をあて、実践的な英語力を身に付ける</p> <p>This General English class is designed to teach students how to communicate using English. Speaking and listening are important to communication so there will be active communication activities as well as learning and practicing reading and writing skills.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションするために必要な英語語彙・表現を学習する 2. コミュニケーションするために必要な英語の文構造ならびに発音を習得する 3. 相手意識をもち言語活動として英語を使うことが出来る 			
<p>授業の概要</p> <p>テキストを中心に講義は進められるが、それ以外に語彙クイズとe-learningを活用した英語ビデオの授業課題に出される。</p> <p>The textbook will be used in class to teach English skills and one chapter will be finished every two weeks. We will use ICT for vocabulary quizzes and online English videos for e-learning homework. Students will have reading and writing assignments online. At the end of the term will be a test.</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：placement test</p> <p>第2回：orientation</p> <p>第3回：Unit 1 Nice to meet you! Introductions - vocabulary, grammar, writing, special activity</p> <p>第4回：Unit 1 listening, grammar, writing, special activity</p> <p>第5回：Unit 2 What do you do? simple present - vocabulary, grammar, writing, special activity</p> <p>第6回：Unit 2 listening, grammar, writing, special activity</p> <p>第7回：Unit 3 Do you like noodles? do questions - vocabulary, grammar, writing, special activity</p> <p>第8回：Unit 3 listening, grammar, writing, special activity</p>			

第9回 : Unit 4 How often do you Exercise? frequency - vocabulary, grammar, writing, special activity

第10回 : Unit 4 listening, grammar, writing, special activity

第11回 : Unit 5 I'm Listening to Music. present continuous - vocabulary, grammar, writing, special activity

第12回 : Unit 5 listening, grammar, writing, special activity

第13回 : Unit 6 Where were you yesterday? past tense - vocabulary, grammar, writing, special activity

第14回 : Unit 6 listening, grammar, writing, special activity

第15回 : review

定期試験

テキスト

「Smart Choice 4th Edition Multi-Pack 1A」 著者 : Ken Wilson/出版社 : Oxford

参考書・参考資料等

適宜指示する

学生に対する評価

active participation in class: 30%

授業への積極的参加

vocabulary quizzes: 15%

ボキャブラリークイズ

e-learning video assignments: 10%

e-ラーニング課題

online assignments: 10%

オンライン課題

end-term exam: 35%

学期まとめテスト

授業科目名： 総合英語II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： ストリックランド ザック
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>将来、学生は職場で使うと考えられる英語に焦点をあて、実践的な英語力を身に付ける</p> <p>This General English class is designed to teach students how to communicate using English. Speaking and listening are important to communication so there will be active communication activities as well as learning and practicing reading and writing skills.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションするために必要な英語語彙・表現を学習する 2. コミュニケーションするために必要な英語の文構造ならびに発音を習得する 3. 他者意識をもち言語活動として英語を使うことが出来る 			
<p>授業の概要</p> <p>テキストを中心に講義は進められるが、それ以外に語彙クイズとe-learningを活用した英語ビデオの授業課題に出される。</p> <p>The textbook will be used in class to teach English skills and one chapter will be finished every two weeks. We will use ICT for vocabulary quizzes and online English videos for e-learning homework. Students will have reading and writing assignments online. At the end of the term will be a test.</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Unit 7 Which one is cheaper? comparing - vocabulary, grammar, writing, special activity</p> <p>第2回：Unit 7 listening, grammar, writing, special activity</p> <p>第3回：Unit 8 They're very friendly. be like, look like - vocabulary, grammar, writing, special activity</p> <p>第4回：Unit 8 listening, grammar, writing, special activity</p> <p>第5回：Unit 9 You can visit the zoo. can, can't - vocabulary, grammar, writing, special activity</p> <p>第6回：Unit 9 listening, grammar, writing, special activity</p> <p>第7回：Unit 10 Is there a coffee shop? there is, there are - vocabulary, grammar, writing, special activity</p>			

<p>第8回 : Unit 10 listening, grammar, writing, special activity</p> <p>第9回 : Unit 11 I had a good time. simple past - vocabulary, grammar, writing, special activity</p> <p>第10回 : Unit 11 listening, grammar, writing, special activity</p> <p>第11回 : Unit 12 I'm going to go by car. future - vocabulary, grammar, writing, special activity</p> <p>第12回 : Unit 12 listening, grammar, writing, special activity</p> <p>第13回 : project</p> <p>第14回 : special class</p> <p>第15回 : review</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>「Smart Choice 4th Edition Multi-Pack 1B」 著者 : Ken Wilson/出版社 : Oxford</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜指示する</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>active participation in class: 30%</p> <p>授業への積極的参加</p> <p>vocabulary quizzes: 15%</p> <p>ボキャブラリークイズ</p> <p>e-learning video assignments: 10%</p> <p>e-ラーニング課題</p> <p>online assignments: 10%</p> <p>オンライン課題</p> <p>end-term exam: 35%</p> <p>学期まとめテスト</p>

授業科目名： 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 武田 春美・小城 弥生
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、いかに効果的に情報を活用できるかを実践的に学んでいく</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らのパソコンを適切に管理し、安全に活用できる 2. Officeソフトの操作を理解し目的に応じた資料作成等ができる 3. セキュリティや情報モラル等を理解し場面に応じた必要な判断ができる 			
<p>授業の概要</p> <p>大学での学習および生活において必須となる基礎的なICT利活用力を身につけることを授業の目的とし、学内ネットワークの利用・活用方法、キーボードのタイピング、レポート作成のポイント、各種分析方法の基礎、そしてプレゼンテーションのポイントなどを実践的に学ぶ。具体的には、Officeソフトの操作学習を通じ、身近な素材を元に、文書作成ソフト（Word）ではレポート作成、表計算ソフト（Excel）ではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）ではスライド作成といった、基礎力を養う。また、情報社会における様々な危険から自分たちの身を守るための知識、情報を扱う上での知識・技能である、広義の情報リテラシーの醸成も図る。</p> <p>本授業と後期のデータサイエンス入門を通じてIoT、AIの時代に対応したICTリテラシーの向上と習得、他科目での学習や学外の活動などで活用できるよう、授業を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：今後の学習に必要な基本的な環境を準備し、理解すること、また利用方法を習得する。</p> <p>第2回：セキュリティと情報モラル(1)：パソコン/ネットワークの利用において、データやファイルなどの情報の取り扱いを理解する。</p> <p>第3回：セキュリティと情報モラル(2)：情報の適切な取り扱い方法や対策を学ぶ。</p> <p>第4回：Word(1) 文書作成①：Officeソフトの概要について理解し、その一種であるワープロソフトWordの基本操作を学習し、簡単な文書の作成演習を行う。</p> <p>第5回：Word(2) 文書作成②：Wordにおける、レイアウト処理や画像などのオブジェクト操作や見出し書式の設定方法を学び、指示された書式に沿ったレポート作成演習を行う。著作権：著作権などに関連する権利・法律を理解する。</p>			

第6回：Word(3) レポート作成：レポート作成に必要な応用的な機能を学習する。

第7回：Excel(1) 表作成①：Officeソフトの表計算ソフトであるExcelの基本操作を学習し、簡単な作表やデータ入力の演習を行う。個人情報保護：インターネット上で個人情報を取り扱う上での心構えや漏洩トラブルについて学習する。（小テスト（第4回～6回の内容）による到達度チェックとフォローアップによって学習内容の定着を図る）

第8回：Excel(2) 表作成②：Excelの基本操作を学習し、作表やレイアウト調整を行う。ネットコミュニケーション：インターネット上で情報を発信する上での心構えやトラブルについて学習する。

第9回：Excel(3) 表作成③：Excelの基本的な数式・計算式を学習する。

第10回：Excel(4) 表作成④：Excelの基本的な関数を習得する。グラフ作成①：Excelの基本的なグラフ作成方法を習得する。

第11回：Excel(5) グラフ作成②：グラフを用いたデータ表現を学び、データの加工・集計結果を適切に表現する方法を習得する。

第12回：PowerPoint(1) スライド作成①：OfficeソフトのプレゼンテーションソフトであるPowerPointの基本操作を学習し、簡単なスライド作成の演習を行う。小テスト（第7回～11回の内容）による到達度チェックとフォローアップによって学習内容の定着を図る。

第13回：PowerPoint(2) スライド作成②：プレゼンテーション時において、活用できる知識・技能を学ぶ。

第14回：Word/Excel復習：Word、Excelの学習内容について復習する。

第15回：総復習：Word、Excel、PowerPointの総復習。※基本的には上記授業計画に基づき進めるが、受講生の理解状況などにより変更する可能性がある。（詳細は授業内で指示する）

テキスト

「イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Microsoft365・Office2021対応【NESS付】」noa出版

参考書・参考資料等

授業内で都度提示する。

学生に対する評価

授業への参加度（20%）…出席状況で評価する

演習課題（e-learning含む）等の評価・レポート課題（第16回）（40%）…授業内で指定した課題やe-learning教材による確認テストによって評価する

小テスト（第7回、12回）と総合課題（15回）…小テストや総合課題を実施し評価する（Word、Excelについて授業で学んだ知識や理解度を問う問題を出題する）

授業科目名： データサイエンス入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小城 弥生・武田 春美
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>前期に習得したOfficeソフトの基礎的なスキルを元に、数理・データサイエンス・AIの全体像を把握し、今後の情報社会に求められるIoT、AIの時代に対応したデータや情報を適切に扱う力、データ分析の基礎を身につけることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値とデータ・AIを扱う上での留意事項を説明できる 2. Excelなどの表計算ソフトウェアを用いてデータを適切に整理・分析することができる 3. 整理したデータや分析結果を正しく読み解き、適切な図表を用いて表現し、他者に分かりやすく伝えることができる 			
授業の概要			
<p>情報リテラシーで習得したパソコン操作スキル及び情報運用(法律・モラル・セキュリティ)を活用し、データをもとに事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。また、データ・AIを利活用出来る基礎的素養を身に着けることを授業目的とする。</p> <p>授業内では、社会におけるデータ・AIとの関わり、統計の基礎的な考えを習得し、統計局のデータを用いて社会の実データ、実課題を利用し、適切に読み解き、それらの関係を分析・考察し表現することを実践する。</p> <p>また、セキュリティと情報モラルの習得を行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション：オリエンテーション、データサイエンスとは。データサイエンスとは何か、情報とデータについて</p> <p>第2回：社会におけるデータ・AI利活用①：Society5.0・AIと社会の結びつきと活用・AI技術が引き起こす社会の課題</p> <p>第3回：社会におけるデータ・AI利活用②・データ・AI利活用留意事項：比構造化データ・構造化データ・情報モラルと情報セキュリティ</p> <p>第4回：データリテラシー①：数式・関数の基本</p> <p>第5回：データリテラシー②：データベース・ピボットテーブル</p> <p>第6回：データリテラシー③：グラフ表現と分析</p> <p>第7回：統計の分析手法を学ぶ：標本調査、代表値、ばらつき、関係</p>			

第8回：データの活用事例に学ぶ①：体験：顧客の購買状況を統計的に分析し、その結果を活用する
 第9回：データの活用事例に学ぶ②：体験：顧客の特徴や傾向を調べ、販売戦略を立案する
 第10回：データの活用事例に学ぶ③：天気と売上の関係から、効果的な販売・仕入れ
 第11回：データの活用事例に学ぶ④：統計的思考で商品の品質チェック
 第12回：データ活用を実践する①：公的統計を使って、都市計画に挑戦
 第13回：データ活用を実践する②：作物統計から農業の現状を把握する
 第14回：データを表現する①：分析結果をわかりやすく効果的に表現する
 第15回：データを表現する②：分析結果をPowerPointを利用してプレゼン資料にまとめ表現する。
 (最終課題)

テキスト

「はじめの第一歩 基礎からはじめる データサイエンス」著者：保本 正芳/noa出版

参考書・参考資料等

授業内で紹介する

学生に対する評価

授業への参加度 (20%)

演習課題の評価、レポート課題 (50%)

最終課題 (30%)

授業への参加度…出席及び課題の実施有無で評価する

演習課題等の評価・レポート課題 (16回目に実施) …单元ごとの理解度を図る課題を行う

最終課題…15回までに学んだ内容をもとに最終課題を実施

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川 潤
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 教育の本質と社会的役割について理解している。</p> <p>(2) 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、現代社会における多様な教育課題について、歴史的背景も踏まえて自らの見解を述べることができる。</p> <p>(3) 学校、家庭、社会における教育に関する様々な思想を理解し、将来の教育のあり方について構想することができる。</p>			
授業の概要			
<p>現代社会における教育制度は、歴史的に様々な社会的な要請を受けて形成されてきたものであるが、急激な社会の変容に伴い構造的な限界を露呈しつつあり、大きな転換期を迎えている。本授業では、現代の教育が今の姿に至るまでの展開や様々な思想を概観した上で、我々が「当たり前」と思っている教育システムの意義や問題点について考察する。それを踏まえて、ますます課題が複雑化・多様化するこれからの時代の教育のあり方について、自分なりの理想像を持てるようにすることを目的とする。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション～「教育」とは何か～ 〈コアカリ (1)-1〉			
第2回：教育の歴史と思想① ～家族と社会による教育（ルソーとペスタロッチを中心に）～ 〈コアカリ (2)-1, (3)-1,3〉			
第3回：教育の歴史と思想② ～近代学校教育の成立～ 〈コアカリ (2)-2, (3)-2〉			
第4回：教育の歴史と思想③ ～デューイと経験主義～ 〈コアカリ (2)-2,3, (3)-2,3〉			
第5回：「主体的・対話的で深い学び」の本質 〈コアカリ (1)-1, (3)-2〉			
第6回：教員養成制度の歴史的変遷 〈コアカリ (2)-2,3〉			
第7回：いじめ問題の歴史的変遷 〈コアカリ (2)-3〉			
第8回：不登校問題と多様な教育機会の確保 〈コアカリ (1)-2, (3)-1,2〉			
第9回：ホームスクーリングの教育的意義と課題～教育をめぐる「自由」の問題～ 〈コアカリ (1)-2, (3)-1,2〉			
第10回：大学への進学とメリトクラシー 〈コアカリ (3)-1,2〉			
第11回：高校・大学教育の無償化をめぐる議論～経済性と社会正義の観点から～ 〈コアカリ (3)-1,2〉			

第12回：現代における「独学」の可能性と限界 〈コアカリ (1)-1), (3)-1)2)〉

第13回：通信制高等学校の社会的役割 〈コアカリ (2)-3), (3)-1)2)〉

第14回：学校教育と社会教育の連携 〈コアカリ (1)-2)〉

第15回：これからの時代の教育のあり方を考える

テキスト

特定のテキストは使用せず、毎回の授業で資料を配布する。

参考書・参考資料等

高見茂ほか(監修)・鈴木晶子ほか(編)(2018)『教育思想・教育史(教職教養講座 第2巻)』協同出版

学生に対する評価

①期末レポート(60%)：授業内容の理解度及び批判的・論理的思考力を60点満点で評価する。

②平常点(40%)：毎回のリフレクション(2点×15)の提出状況およびグループワークの課題(10点)をもとに評価する

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川 潤 河嶋 伸久
			担当形態： オムニバス、クラス分け
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教職の専門性と教師の魅力について学ぶ。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職という仕事を多面的に理解している 2. 専門職的な能力を築きつつ、生徒たちの学びをデザインできる実践的スキルを備えている 3. 教職の専門性に裏打ちされて、総合的に展開できる実践的指導力を備えている 			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育を経験してきた者にとって、教員は身近な存在の職業である。しかしながら、その職務は多岐に渡り、社会的な要請により刻々と変化していくものであることから、全貌の把握は決して容易ではない職業でもある。本授業では受講生自身の経験や現代的な教育課題も題材としながら、教員という職業の基本的性格や使命について学び、教職への意欲と自覚を高めることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション—なぜ教職を目指すのか—（担当：西川）【コア(1)-2】</p> <p>第2回：それぞれの教師像—今までに出会った先生を振り返る—（担当：西川）【コア(2)-2】</p> <p>第3回：教師の職務—「チームとしての学校」とは？—（担当：西川）【コア(1)-1(4)-1】</p> <p>第4回：日本の教師像—教師に期待される役割について—（担当：西川）【コア(1)-1(2)(2)1)2(3)-1)2】</p> <p>第5回：教師の服務規程—守らなければならない義務—（担当：西川）【コア(2)-2(3)-3】</p> <p>第6回：現代の教職を取り巻く課題①—働き方改革と給特法問題—（担当：西川）【コア(2)-1)2(3)-3(4)-1】</p> <p>第7回：現代の教職を取り巻く課題②—部活動問題—（担当：西川）【コア(2)-1)2(3)-1(4)-1】</p> <p>第8回：現代の教職を取り巻く課題③—学級経営と保護者対応—（担当：西川）【コア(2)-1)2(3)-1(4)-1】</p> <p>第9回：学校教育における食に関する指導—食育や肥満、偏食、植物アレルギーなどの指導について—（担当：河嶋）【コア(3)-1(4)-1】</p> <p>第10回：学校給食—学校給食の歴史、栄養管理、衛生管理について—（担当：河嶋）【コア(4)-1】</p> <p>第11回：教職の社会的地位に関するグループ学習①（担当：西川）【コア(1)-1)2(2)-1】</p>			

第12回：教職の社会的地位に関するグループ学習②（担当：西川）【コアリ(1)-1)2)(2)-1)】
 第13回：教職の社会的地位に関するグループ学習③（担当：西川）【コアリ(1)-1)2)(2)-1)】
 第14回：教職の社会的地位に関するグループ学習④（担当：西川）【コアリ(1)-1)2)(2)-1)】
 第15回：まとめ—これからの時代の教師に必要なこと（学びつづける教師とは？教員研修の意義等について）—（担当：西川）【コアリ(1)-1)2)(3)-1)2)】

テキスト

なし（授業時に指導資料を配布する）

参考書・参考資料等

適宜、授業内で紹介する

学生に対する評価

◆成績評価方法

①平常点：40%

②期末レポート：60%

◆成績評価基準

①各回のコメントカードまたはグループワークのワークシートをもとに評価する。各授業の内容について自分なりの考えを持っているかどうかを評価する。

②教職に関する基礎知識が定着しているかどうかを評価する。

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川 潤
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
「教育の条件整備」のための教育法規・教育行財政・教育政策			
◆到達目標			
1. 教育に関する社会的、制度的または経営的事項を理解し習得している			
2. 教育制度、教育政策、学校経営に関する理解を深めている			
3. 教育に関するさまざまな問題について深く考えることができる			
授業の概要			
本授業では、日本の公教育を支える行政・法規・財政の仕組みに関する基礎的事項について説明・考察を行う。具体的には、教育法規、教育行政組織、教育課程行政等の学習を通して、公教育の基盤となる部分を理解し、教育財政や私学行政等の学習を通して、公教育と私教育の関係性についても検討する。また、今日の学校教育を取り巻く現代的諸課題と、それに対応するための教育政策の動向についても考察する。さらに、学校と地域の連携について、連携が求められる背景を踏まえた上で、関連する政策の動向を確認する。学校安全への対応については、防災・危機管理と学校の役割について、身近な例を参照しながら考察する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション－教育行政学を学ぶ意味－【コア(1-2)-1)3】			
第2回：教育行政の基本原則－「教育行政」とはどのような理念で、どのような特徴を持っているか？－【コア(1-2)-1)3】			
第3回：教育法規①－法規の基本と日本国憲法－【コア(1-2)-2】			
第4回：教育法規②－教育基本法の内容－【コア(1-2)-2】			
第5回：中央の教育行政組織－文部科学省とはどのような機関なのか？－【コア(1-2)-3)4】			
第6回：教育財政－教育とお金の問題について考える－【コア(1-2)-3)4】			
第7回：教育政策と教育行政－教育政策が出来上がるまで：事例分析－【コア(1-2)-3)4】			
第8回：地方の教育行政組織－教育委員会の役割と近年の改革動向－【コア(1-2)-3)4】			
第9回：教育課程行政と教科書行政－学校が教える内容はどのように決められているのか？－【コア(1-2)-3)4】			
第10回：教員人事行政－教員の養成・採用・研修－【コア(1-2)-3)4】			
第11回：私学行政－学校教育における「私学」の存在意義について考える－【コア(1-2)-1)3)4】			

第12回：学校と地域の連携①ー地域コミュニティと学校統廃合ー【コアカ(1-2)-3)4)(2)-1)2)】

第13回：学校と地域の連携②ーコミュニティ・スクールと地域学校協働本部ー【コアカ(1-2)-3)4)(2)-1)2)】

第14回：学校安全への対応ー学校のリスク・マネジメントと防災ー【コアカ(1-2)-3)4)(2)-1)2)】

第15回：全体のまとめ【コアカ(1-2)-1)2)3)4)(2)-1)2)(3)-1)2)】

定期試験

テキスト

『教育法規スタートアップ・ネクスト ver. 2.0』高見茂／昭和堂

参考書・参考資料等

適宜、授業内で紹介する

学生に対する評価

◆成績評価方法

①授業への取り組み状況：40%

②期末試験：60%

◆成績評価基準

①授業への取り組み状況：ディスカッションへの参加状況や毎回の授業で配布するリフレクションペーパーの内容をもとに評価する。

②期末試験：試験の成績をもとに評価する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 美加
			担当形態： 単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生徒の心身の発達及び学習の過程（障がい者の心身の発達及び学習の過程を含む）について理解する</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学で得られた様々な知見を概観し、相互の理解を深めている 2. 教育心理学的に授業評価ができる 3. その授業評価に基づき、授業計画・授業内容・授業方法について改善策を提案できる 			
<p>授業の概要</p> <p>教育における心理学的法則や事実を理解し、効果的な保育・教育を展開するために必要な教育心理学の基本事項の知識を得ることを目的とする。また、子どもに対して、その子どもの発達に応じた教育的な対応のあり方を考える。そのために、本講では教育知識・思考・意欲に焦点をあて学びのプロセスや発達と保育・教育環境について考え、保育・教育現場が抱える問題について考察する。最後に保育実践について思考し、有効な保育・教育方法や保育・教育者と子どもの相互作用について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育心理学の目的・役割【コア(2)-3】</p> <p>第2回：記憶について①短期記憶②長期記憶③忘却【コア(2)-2】</p> <p>第3回：学ぶことと考えること ①知識 ②問題解決【コア(2)-1)2)3】</p> <p>第4回：学習とほめること ①古典的条件づけ ②道具的条件づけ ③観察学習 ④自己強化による学習【コア(2)-1】</p> <p>第5回：やる気を考える ①期待-価値モデル ②統制感 ③原因の考え方 ④内発的動機づけ【コア(2)-2】</p> <p>第6回：学級の理解と指導 ①学級集団の特殊性 ②教師-生徒関係 ③学級雰囲気 ④生徒の人間関係【コア(2)-2)3】</p> <p>第7回：どのように教えるか ①発見学習 ②受容学習 ③グループ学習と個別学習 ④適性処遇交互作用【コア(2)-1)3】</p> <p>第8回：人間の発達について ①発達とは ②遺伝と環境 ③学習の臨界期と敏感期【コア(1)-1】</p>			

第9回：知的発達のメカニズム ①頭が良いとはどういうことか ②知能の発達【コア(1)-1)2】

第10回：人格発達の基礎理論 ①エリクソンの発達理論【コア(1)-1)2】

第11回：人格発達の基礎理論 ②乳幼児期「愛着理論」【コア(1)-1)2】

第12回：人格発達の基礎理論 ③児童期「10歳の壁」【コア(1)-1)2】

第13回：人格発達の基礎理論 ④青年期「自我同一性の確立」【コア(1)-1)2】

第14回：特別支援教育（困難を抱える子どもたち）①知的障害 ②学習障害 ③発達障害【コア(2)-3】

第15回：特別支援教育（コーディネーターの役割と支援計画）まとめとフィードバック【コア(2)-3】

テキスト

なし（授業時に指導資料を配布する）

参考書・参考資料等

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』

学生に対する評価

◆成績評価方法

授業中の課題 70%、

定期試験にかわるレポート 30%で評価する。

◆成績評価基準

【授業中の課題】

① 授業内容の理解度、②要点のまとめ方、によって評価する。

【まとめレポート】

① 基本的事項の理解、②問題の立て方、③要点のまとめ方、④意見の独創性によって評価する。

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上 和久 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校・高等学校の教諭・養護教諭・栄養教諭等の教員免許状取得を目指す学生として、特別支援教育の意義、制度の仕組みおよび生徒の理解と支援の方途の概要を身につける。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育の理念や目標を理解する 2. 具体的な支援・指導の在り方を検討する 3. 教育支援計画、個別の支援計画、組織的な連携の在り方について理解する 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、特別支援教育の定義、理念、制度、歴史及びインクルーシブ教育システムについて説明する。次に特別支援教育の対象児の障害および特別の教育的ニーズについての概要、特別支援学校や特別支援学級等での教育課程や通級による指導、通常の学級での特別な配慮・支援、個別の教育支援計画・個別の指導計画について説明を行う。また、特別支援教育を推進するための特別支援教育コーディネーターの役割、特別支援学校のセンター的機能、学校間連携（スクールクラスター）や関係機関との連携、移行期の支援について解説を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育の動向（定義・理念・制度・歴史）【コア(1)-1】 2. 特別支援教育の対象児について1（特別支援学校、特別支援学級に在籍する児童）【コア(1)-2)3)】 3. 特別支援教育の対象児について2（通級による指導・通常の学級に在籍する発達障害等の児童）【コア(1)-2) (2)-2) (3)-1)】 4. 特別支援学校の教育（教育課程の編成および自立活動の指導を含む）1（視覚障害）【コア(1)-3) (2)-1)2)】 5. 特別支援学校の教育（教育課程の編成および自立活動の指導を含む）2（聴覚障害）【コア(1)-3) (2)-1)2)】 6. 特別支援学校の教育（教育課程の編成および自立活動の指導を含む）3（知的障害）【コア(1)-3) (2)-1)2)】 7. 特別支援学校の教育（教育課程の編成および自立活動の指導を含む）4（肢体不自由）【コア(1)-3) (2)-1)2)】 			

<p>8. 特別支援学校の教育（教育課程の編成および自立活動の指導を含む） 5（病弱）【コアカ(1)-3) (2)-1)2)】</p> <p>9. 小学校での特別支援教育（特別支援学級の教育課程、通級による指導、通常の学級での支援）【コアカ(1)-1)2) (2)-1)2) (3)-1)】</p> <p>10. 特別支援教育の推進とインクルーシブ教育システムの構築【コアカ(1)-1)】</p> <p>11. 個別の教育支援計画・個別の指導計画【コアカ(2)-3)】</p> <p>12. 校内支援体制と特別支援教育コーディネーターの役割【コアカ(2)-4)】</p> <p>13. 特別支援学校のセンター的機能と地域への相談支援【コアカ(2)-4)】</p> <p>14. 学校間連携（スクールクラスター）、関係機関との連携について【コアカ(2)-4)】</p> <p>15. 就学・移行期の支援について【コアカ(1)-2) (2)-1)3)】</p>
<p>テキスト</p> <p>適宜資料を配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『特別支援学校学習指導要領』海文堂出版</p> <p>『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』教育出版</p> <p>『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』教育出版</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>◆成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点…30点 ・授業内試験…20点 ・期末レポート…50点 <p>◆成績評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点…講義態度と毎回の感想により評価する。 ・授業内試験…授業内に実施する小レポートにより評価を行う。 ・期末レポート…講義等で獲得した学習の成果を、適切に記述できているのか評価する。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川 潤
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 教育課程の基本原理や実践に即した教育課程編成の方法を理解している。</p> <p>(2) 学習指導要領改訂の流れとその時々求められた資質・能力の変遷を理解し、学校教育と社会のつながりを教育課程の観点から見通すことができる。</p> <p>(3) 中等教育におけるカリキュラム・マネジメントについて、その意義を自らの言葉で説明することができる。</p>			
授業の概要			
<p>学校教育の屋台骨とも言える教育課程について、思想と理論、学習指導要領改訂の歴史、現行学習指導要領の理念を中心に概説する。学校現場での教育課程編成の方法や中等教育におけるカリキュラム・マネジメントの実態と重要性について理解を深めるとともに、視野の拡大を目指し、高大接続や海外の教育課程に関する内容も取り上げる。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション～教育課程の基礎～ 〈コアカリ (1)-1)3〉			
第2回：教育課程の思想と構造 〈コアカリ (2)-1)2〉			
第3回：教育目標の設定と教育課程の編成 〈コアカリ (2)-1)2)3〉			
第4回：教育課程の変遷①～戦前日本の教育課程～ 〈コアカリ (1)-2〉			
第5回：教育課程の変遷②～初期の学習指導要領～ 〈コアカリ (1)-2〉			
第6回：教育課程の変遷③～「教育の現代化」から「新学力観」へ～ 〈コアカリ (1)-2〉			
第7回：教育課程の変遷④～「ゆとり教育」と学力低下論争～ 〈コアカリ (1)-2〉			
第8回：教育課程の変遷⑤～「生きる力」と「社会に開かれた教育課程」～ 〈コアカリ (1)-2)3〉			
第9回：カリキュラム・マネジメントとは何か 〈コアカリ (3)-1)2〉			
第10回：義務教育段階におけるカリキュラム・マネジメント 〈コアカリ (2)-2)3, 3-1)2〉			
第11回：高等学校におけるカリキュラム・マネジメント 〈コアカリ (2)-2)3, 3-1)2〉			
第12回：高校と大学の接続～教育課程の接続の観点から～ 〈コアカリ (1)-3, 2-3〉			
第13回：次期学習指導要領の方向性 〈コアカリ (1)-2)3〉			
第14回：諸外国の教育課程～アメリカと中国における教育課程～ 〈コアカリ (1)-3〉			

第15回：全体のまとめ**テキスト**

特定のテキストは使用せず、毎回の授業で資料を配布する。

参考書・参考資料等

・田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵（2023）『新しい時代の教育課程〔第5版〕』

有斐閣アルマ

・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』

・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』

学生に対する評価

①期末レポート（60%）

②平常点（30%）：毎回のリフレクション（2点×15）の提出状況をもとに評価する。

③グループ課題：（10%）：カリキュラム・マネジメントに関するグループ学習の成果物をもとに評価する

授業科目名： 特別活動及び総合的な 学習の時間	教員の免許状取得のための 必修科目（中・高・養・栄）	単位数： 2単位	担当教員名： 谷本 寛文 柳澤彰紀
			担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法（中）／総合的な探究の時間の指導 法（高）／特別活動の指導法（中・高）／道徳、総合的な学習の 時間及び総合的な探求の時間並びに特別活動に関する内容（養護 ・栄）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「特別活動」および「総合的な学習（探究）の時間」の意義と指導法を学ぶ。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動及び総合的な学習（探究）の時間の意義と、今日求められている課題を認識している 2. 特別活動及び総合的な学習（探究）の時間の指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を行うことができる 3. 模擬授業を行う経験を通して、授業の場での具体的かつ実践的な教育方法を修得している 			
<p>授業の概要</p> <p>「総合的な学習（探究）の時間」について、教育課程の中における位置づけを明らかにする。また、「総合的な学習（探究）の時間」において、児童・生徒にどのような力を育成するのかについて、目標と活動の関係から明らかにする。</p> <p>「特別活動」について、教育課程の中における位置づけを明らかにするとともに、日本の学校教育において集団での活動が重視される理由について、社会的背景や諸外国との比較を通して考察を行う。授業の後半では、指導案作成と模擬授業を通して、「特別活動」の実践的な指導力向上を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション1（授業の概要、到達目標、評価方法等の確認）【コア(1)-1)2】－谷本</p> <p>第2回：「総合的な学習（探究）の時間」の目標（総合的な学習（探究）の時間で育成する資質・能力とは）【コア(1)-1)2】－谷本</p> <p>第3回：「総合的な学習（探究）の時間」の指導計画と内容の取扱い【コア(2)-1)2】－谷本</p> <p>第4回：「総合的な学習（探究）の時間」の指導計画の要素と全体指導計画及び年間指導計画【コア(2)-1)2】－谷本</p> <p>第5回：「総合的な学習（探究）の時間」の学習指導方法【コア(3)-1)2】－谷本</p>			

- 第6回：「総合的な学習（探究）の時間」の指導ポイント（実践事例をもとに）【コアカ(3)-1)2】
－谷本
- 第7回：「総合的な学習（探究）の時間」の評価ポイント（実践事例をもとに）【コアカ(3)-1)2】
－谷本
- 第8回：「特別活動」を振り返って【コアカ(1)-1)2】－柳澤
- 第9回：「特別活動」の歴史と教育的意義【コアカ(1)-2) (2)-1)】－柳澤
- 第10回：合意形成に向けた話し合い活動【コアカ(2)-3)】－柳澤
- 第11回：「特別活動」の指導法①－学級活動（ホームルーム活動）編－【コアカ(1)-3) (2)-1)2)3)】
－柳澤
- 第12回：「特別活動」の指導法②－生徒会活動編－【コアカ(1)-4) (2)-1)2)4)】－柳澤
- 第13回：「特別活動」の指導法③－学校行事編－【コアカ(1)-4) (2)-1)2)3)4)】－柳澤
- 第14回：「特別活動」の指導法④－潜在のカリキュラムへの着目－【コアカ(2)-1)4)】－柳澤
- 第15回：特別活動の工夫ある指導計画と評価【コアカ(1)-1)2) (2)-1)2)】－柳澤

テキスト

- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年版）解説 総合的な学習の時間編』
- 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年版）解説 総合的な探求の時間編』
- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年版）解説 特別活動編』
- 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年版）解説 特別活動編』

参考書・参考資料等

- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』
- 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』

学生に対する評価

◆成績評価方法

「総合的な学習（探究）の時間」…毎回の振り返りレポート25%、期末レポート25%

「特別活動」…毎回の振り返りレポート25%、期末レポート25%

◆成績評価基準

毎回の振り返りレポート…授業内容を理解し、わかったことと考えたことをまとめられているか評価する。

期末レポート…指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点を押さえてまとめられているか評価する。

授業科目名： 教育方法論（ICT活用を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷本 寛文 辻野 孝 担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術／情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育方法及び教育現場における情報通信技術の活用に関する理解</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法に関する理論に基づき、授業研究を行うことができる 2. 教育方法に関する理論に基づき、教材研究を行うことができる 3. 学習教材を計画・開発・評価するプロジェクトに取り組むことができる 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、学校教育において育成が求められる資質・能力に効果的な教育の方法・技術、情報機器・教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的とする。そのため、各回のテーマに応じて、講義及び視聴覚資料による知識の習得とともに、学生自身が各種 ICT 機器を活用しながら体験的に学修する機会を設ける。</p>			
<p>授業計画 【コア①教育の方法及び技術 ②情報通信技術を活用した教育の理論及び方法】</p> <p>第1回：ガイダンス（教育方法を学ぶ意義と授業の目標）—谷本【コア①(1)-1)②(1)-1)】</p> <p>第2回：様々な学びのとりえ方 —谷本【コア①(1)-2)】</p> <p>第3回：教育方法の歴史の変遷 —谷本【コア①(1)-1)2)②(1)-1)】</p> <p>第4回：学びのメカニズムとモデル —谷本【コア①(1)-3)】</p> <p>第5回：子どもの知能観と学びへの動機付け —谷本【コア①(1)-3)】</p> <p>第6回：教育評価のあり方 —谷本【コア①(1)-4)】</p> <p>第7回：教育方法に関する現代的テーマ（情報モラルを含む）—谷本【コア②(3)-1)2)】</p> <p>第8回：現代社会におけるICTの役割 —辻野【コア②(1)-1)】</p> <p>第9回：学校教育におけるICTの利活用の事例 —辻野【コア②(1)-3).(2)-1)2)3)4)】</p> <p>第10回：学校教育におけるICT活用の基本的な考え方と実践—辻野【コア②(3)-1)2)】</p> <p>第11回：個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用—辻野【コア②(1)-2).(2)-1)】</p> <p>第12回：校務の情報化とデータの活用—辻野【コア②(2)-2)】</p> <p>第13回：学習環境のデジタル化を含む授業デザインの発表—辻野【コア①(2)-1)2)②(3)-2)3)】</p> <p>第14回：教育データの理解と活用—辻野【コア①(1)-4) ②(2)-2)】</p> <p>第15回：総括—谷本・辻野【コア①(1)-1)2)3)4) (2)-1)2) ②(1)-1)2)3).(2)-1)2)3)4).(3)-1)2)3)】</p>			

テキスト

なし（授業時に指導資料を配布する）

参考書・参考資料等

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』

学生に対する評価

◆成績評価方法

① レポート（30 %）

② パフォーマンス課題（40 %）

③ 授業への参加度（30 %）

グループでの作業やディスカッション、毎回の課題など、授業における姿勢・態度も合わせて評価する。

◆成績評価基準

① レポート（30 %）：教育方法及び技術の理論、構成要件、学習評価の基礎的な知識を修得しているかに基づいて評価する。

② パフォーマンス課題（40 %）：授業のデザインを発表し、ピア評価及び自己評価を通して意味のある振り返りができているかに基づいて評価する。

③ 授業への参加度（30 %）：グループでの作業やディスカッション、毎回の課題など、授業における姿勢・態度も合わせて評価する。

※授業に出席することが前提のため、出席に対しての加点および評価はおこなわない。

授業科目名： 生徒指導及び進路指導 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 美加
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性を持つ生徒一人ひとりを理解できるための基礎的な知識を習得している 2. 教師の専門職性をふまえながら生徒に対する理解および援助の方法について考えることができる 3. 進路指導の理論と方法を知り、キャリア教育の実践について提案できる 			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導とは、単に生徒の問題行動への対応にとどまるのではなく、自己実現をめざし自己を形成していくための指導や援助を提唱するものである。また進路指導（キャリア教育）とは、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成するための指導や援助を提唱するものである。</p> <p>この授業では、個性を持つ生徒一人ひとりを理解するための基礎を学び、教師の専門職性をふまえながら、生徒に対する指導及び援助の方法について考える。</p> <p>そして生徒指導・進路指導（キャリア教育）の理論や方法を学校現場での実践と結びつけながら、教師として学校で教育できることとその限界を考える。</p>			
<p>授業計画 【コアカ①生徒指導の理論及び方法 ②進路指導及びキャリア教育の理論及び方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導とは何か―【コアカ①(1)-1】 2. 生徒指導と教育課程―【コアカ①(1)-1/2】 3. 児童生徒理解の基本―【コアカ①(1)-3】 4. 生徒指導と教育相談―【コアカ①(1)-4】 5. 組織的な連携―【コアカ①(2)-1】 6. 基礎的な生活習慣―【コアカ①(2)-2/3】 7. 校則・懲戒・体罰等―【コアカ①(3)-1】 8. いじめ・暴力行為への対応―【コアカ①(3)-2】 9. 不登校児童生徒への支援―【コアカ①(3)-2】 			

- 10.個別課題への指導と今日的な課題 —【コア①(3)-3】
- 11.進路指導とキャリア教育—【コア②(1)-1/2】
- 12.多様な背景をもつ児童生徒への生徒指導・進路指導・キャリア教育—【コア②(3)-1/2】
- 13.各校種における進路指導とキャリア教育の実際〈【コア②(2)-1/2】
- 14.生徒指導・進路指導・キャリア教育の課題解決に向けて【コア②(1)-2/3】
- 15.総括—【コア①(1)-1)2)3)4) (2)-1)2)3) (3)-1)2)3) ②(1)-1)2)3) (2)-1)2) (3)-1)2)】

テキスト

『教職ライブラリ 生徒指導・進路指導論』住本克彦(編) 建帛社、2025

参考書・参考資料等

『生徒指導提要(改訂版)』文部科学省、2022

『小学校キャリア教育の手引き』文部科学省、2011

『中学校キャリア教育の手引き』文部科学省、2011

『高等学校キャリア教育の手引き』文部科学省、2012

適宜、授業内で紹介する

学生に対する評価

◆成績評価方法

課題100%

◆成績評価基準

課題は、指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点を抑えてまとめられているかを評価する。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 美加
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
学校で生きる教育相談のポイントを学ぶ			
◆到達目標			
1. 教育相談における技法を知っている			
2. 教育相談への理解を深めている			
3. 学校で教員となった場合どのように生徒・保護者と関わっていくかについて各自が積極的に考えることができる			
授業の概要			
教育相談の目的は、児童生徒が将来において自己実現ができるような資質・能力・態度を形成するように働きかけることであり、この点において生徒指導と教育相談は共通している。令和4年12月に「生徒指導提要」が改定されたことを踏まえ、教育相談は生徒指導と一体化されて全教職員が一致して取り組むことが必要とされた。そのために求められている基本的な事項を理解し、事例をもとに現場でどう考えるのかを学ぶ。			
授業計画			
第1回 「学校」という場と教育基本法—【コア(1)-1】			
第2回 教育相談と生徒指導—【コア(1)-1 (3)-2】			
第3回 チーム学校と教師コンサルテーション—【コア(1)-1 (3)-1)3)4】			
第4回 学校における諸問題の理解と対応①担任による教育相談—【コア(1)-1 (2)-1)2)3 (3)-2)3)4】			
第5回 学校における諸問題の理解と対応②いじめ—【コア(2)-1 (3)-2】			
第6回 学校における諸問題の理解と対応③不登校—【コア(2)-1 (3)-2】			
第7回 学校における諸問題の理解と対応④発達障害—【コア(3)-1)3)4】			
第8回 学校における諸問題の理解と対応⑤自傷・自殺行為—【コア(1)-1)2)3 (3)-2)4】			
第9回 学校における諸問題の理解と対応⑥摂食障害その他思春期の心に寄り添う—【コア(2)-1)2)3 (3)-4】			
第10回 学校と家庭をつなぐ保護者面接のポイント—【コア(3)-1】			
第11回 カウンセリングワーク①感情知能とアクティブ・リスニング—【コア(1)-2 (2)-2)3】			

<p>第12回 カウンセリングワーク②葛藤解決—【コアカ(1)-2) (2)-2)3】</p> <p>第13回 カウンセリングワーク③カウンセリング技法について—【コアカ(1)-2) (2)-2)3】</p> <p>第14回 カウンセリングワーク④ゲートキーパー—【コアカ(1)-2) (2)-2)3】</p> <p>第15回 学校における諸課題のまとめとフィードバック—【コアカ(1)-1) (2)-2)】</p>
<p>テキスト</p> <p>授業の前に資料を配付します</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）総則編』</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>◆成績評価方法</p> <p>積極的な受講態度および話し合いの関与40%、 毎回コメントシートを回収し学習状況を確認します。 ミニレポートおよび最終レポート 60%</p> <p>カウンセリングワークへの積極的参加および最終レポートを総合的に評価します。</p> <p>◆成績評価基準</p> <p>【基本的事項の理解】</p> <p>不登校、いじめ、発達障害など学校が抱える諸問題について基本的事項を理解できているか</p> <p>【受講態度による平常評価】</p> <p>①授業時グループワークに積極的に発言し、かつ良い聞き手となって討論に参加しているか ②コメントシートに話し合いによる気づきおよびグループワークの成果を表現できているかどうか ③意見の対立がある時、療法の意見を取り入れながら適切に折り合いをつけることができるか 受講後の話し合いで自己の客観的理解ができるようになっているか</p> <p>以上を鑑みながら総合的に評価する。</p>

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中・高）		単位数：2単位		担当教員名 教科担当：高野拓樹 教職担当：西川潤	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 約10人					
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>教職に関する科目を担当する教員がICTの活用を中心とした教員としての資質能力の形成を、また、教科教育法を担当する教員が専門性を活かした実践的指導力の形成を、それぞれ担当し、連携して進めることで、教員としての資質能力を確実に形成する。実習訪問校および大学併設の中学校・高等学校から得られた意見を授業内容に反映し、毎年度改善を図っている。教育委員会及び学校現場との連絡や依頼は教職・保育職支援センターが行う。</p>					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><授業テーマ></p> <p>教職に必要な知識・技能の確認と実践的指導方法の習得</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義や教員の役割、職務内容について深く理解している 2. 学校を取り巻く諸問題について教員として適切な対処ができる 3. 効果的に教科指導するための工夫ができる 					
<p>授業の概要</p> <p>本授業は4年間の教職課程の集大成として位置付けられ、4年間の振り返りと発展的な課題に取り組むものである。前者は教職課程履修カルテを用いて、自己省察および学習成果の発表等を行い、後者はこれからの時代の中学・高等学校教員として不可欠なICTを駆使した指導能力を養うための課題であり、具体的にはICTを活用した模擬授業を実施する。</p>					

授業計画

- 第1回：全体ガイダンス、教職履修カルテを用いた学修のふりかえり（担当：西川）
 第2回：教育実習の振り返り（担当：西川）
 第3回：ICTを活用した教育活動（担当：西川）
 第4回：ICTを用いた模擬授業のテーマ設定（担当：西川）
 第5回：ICTを用いた模擬授業の指導案作成（担当：西川）
 第6回：ICTを用いた模擬授業の準備（担当：西川）
 第7回：ICTを用いた模擬授業①（担当：西川）
 第8回：ICTを用いた模擬授業②（担当：西川）
 第9回：模擬授業の振り返りとグループ討論（担当：西川）
 第10回：これからの時代に求められる教師像の探究①（担当：西川）
 第11回：これからの時代に求められる教師像の探究②（担当：西川）
 第12回：これからの時代に求められる教師像の発表（担当：西川）
 第13回：地域と学校教育の連携研究①（担当：高野）
 第14回：地域と学校教育の連携研究②（担当：高野）
 第15回：総括（フィードバックを含む）（担当：高野）

テキスト

なし（授業時に指導資料を配布する）

参考書・参考資料等

適宜、授業内で紹介する

学生に対する評価

<成績評価方法>

1. 授業への姿勢（ディスカッションへの参加状況など） 10%
2. 発表資料及び提出物（レポートを含む） 40%
3. 学習指導案 20%
4. 模擬授業 30%

<成績評価基準>

事例研究についての課題やグループ討論の取り組み、教職カルテによる個別指導、学習指導案や模擬授業の取り組みを踏まえ、教員として必要とされる資質能力が身についているかを基準に評価を行う。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（養護教諭）		単位数：2単位	担当教員名 堀井節子、西川潤、谷本寛文		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 約15人					
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>教職に関する科目を担当する教員がICTの活用を中心とした教員としての資質能力の形成を、また、養護に関する専門科目を担当する教員が専門性を活かした実践的指導力の形成を、それぞれ担当し、連携して進めることで、教員としての資質能力を確実に形成する。実習訪問校および大学併設の小学校から得られた意見を授業内容に反映し、毎年度改善を図っている。教育委員会及び学校現場との連絡や依頼は教職・保育職支援センターが窓口となり、学科担当教員が対応できる体制を作っている。</p>					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><授業テーマ></p> <p>教員として必要な知識技能を習得したことを確認するための総まとめ</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員としての専門的実践能力が習得できている 2. 演習の目標に対して十分達成できている 3. 事例研究が適切に展開できる 					
<p>授業の概要</p> <p>この演習は、教員として最小限必要な専門的実践性が本学の求める教員像や到達目標等に照らして、個々の学生において有機的に統合されて形成されているかどうかを最終的に確認し、集大成しようとする科目である。学生がこの演習に参加することによって、これまで履修した科目と活動の中で、何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うための授業である。そのように定着、完成を図ることで、志望学生が教師として実際に実行力のある資質能力を備えることを目標としている。加えて、これからの学校で不可欠となるICT活用能力の向上も狙いとしている。</p>					

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：教職履修カルテの確認（西川）
- 第2回 教育実習の振り返り（西川）
- 第3回 「チームとしての学校」の業務と養護教諭（西川）
- 第4回 養護教諭とICT（西川）
- 第5回 授業設計と模擬授業（1）：ICTを活用した指導法の事例研究（西川）
- 第6回 授業設計と模擬授業（2）：指導案の作成と評価の方法（西川）
- 第7回 授業設計と模擬授業（3）：ICT活用力の向上を目指した模擬授業の実施（西川）
- 第8回 授業設計と模擬授業（4）：授業研究会を有効にする討議（西川）
- 第9回 教師像（1）目指す教員像をイメージ化する。（谷本）
- 第10回 教師像（2）求められる教員像についてのパネルディスカッション。（谷本）
- 第11回 PBL学習（1）養護教諭の職務における課題を考える。（堀井）
- 第12回 PBL学習（2）養護教諭の職務における課題の解決策を検討する。（堀井）
- 第13回 PBL学習（3）養護教諭の職務における課題の解決策を発表する。（堀井）
- 第14回 現代的健康課題を概観する。（堀井）
- 第15回 現代的健康課題について、ダイヤモンドランキングで深める。総括（堀井）

テキスト

なし（授業時に指導資料を配布する）

参考書・参考資料等

適宜、授業内で紹介する

学生に対する評価

<成績評価方法>

授業に対する参加態度（発表や討論を含む）、模擬授業および指導案の完成度、ポートフォリオを活用した自己評価・相互評価、提出物等を総合的に評価する。

【堀井担当分】

- ・PBL学習の発表で相互評価を行う。（自己評価・他者評価・教員評価）
- ・35点満点とする。

<成績評価基準>

- ・授業への参加度…授業中の積極的な発言や意見，グループワーク等の貢献，出席状況等
- ・レポート及び提出物…指定されたテーマについて，授業内容をよく理解し，要点を抑えてまとめられているか。
- ・責任を持って教壇に立てるか等

【堀井担当分】

- ・自己評価、他者評価、教員評価とし、3者が3観点でそれぞれを4段階で評価し、点数化する。
- ・3観点とは、[認識理解力] [企画力・創造力] [プレゼンテーション力]
- ・4段階とは、4：ある（している）、3：どちらかというところ（している）、2：どちらかというところ（していない）、1：ない（していない）
- ・上記で算出した合計点を35点満点になるよう換算する。

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。